

特集 シリーズ 「いじめを生まない学級・学校づくりを目指して3」
言語活動の充実② 学校改善・授業改善の推進【中学校編②】

アクティブ・ラーニング

副所長兼総務企画部長 安部成年

アクティブ・ラーニング（AL）については、学校（特に高等学校）現場の関心が日増しに高まっているところですが、どうすればいいのかよくわからないという疑問を持っている人も多いのではないかと思います。私もその中の一人ではありますが、これまでにいくらか情報を得る機会がありましたので、ここで少しだけ整理しておきたいと思います。

技術革新の進展により、今後10～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高いという予測があるようですが、これから先、人間が就ける仕事の内容は複雑なものに絞られていく可能性が高まっています。グローバル化・情報化も加速しており、ますます変化が激しくなっていくこれからの社会の中で、その健全な形成者として生きていくためには、思考力やコミュニケーション能力等がより一層強く求められていくはずで、また一方で、現在、日本の子供たちの自己肯定感や主体的に学習に取り組む態度等が国際的にみて相対的に低いという課題があります。

こうした時代の変化やこれまでの課題を踏まえ、教育は進化していく必要があります。これまでの取組を基本としながらも、今後はAL等も活用して、子供たちの知識・技能のさらなる

定着・深化を図るとともに、思考力・判断力・表現力等を一層磨いていかなければなりません。

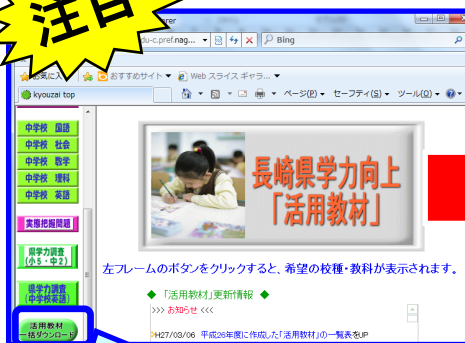
では、ALの具体的な手法は（？）ということになりますが、これは様々な考え方や手法があり、画一的なものではありません。ただし、グループワーク等を取り入れて単に授業が活発になればよいというものではなく、子供たち個々の思考の活性化・深化を目指す取組になっています。

ALを取り入れた授業は、「集中力向上」「学力向上」「いじめ防止」「インクルーシブ教育」等、様々な機能に重点を置いてアレンジすることができると言われています。だからこそ、授業のどのタイミングで、何を目的としたALを盛り込むのか、そしてそれを成立させるためにはどうするべきかについて教師は深く考える必要があります。教師自身がアクティブになり、目の前の子供たちの学びを深め、思考力やコミュニケーション能力等を高めるための自分流のALを探し続けることが重要です。そして、その手始めとしては、すでに実践している人たちの指導事例をいくつか見ていって、真似できるヒントをつかんでいくことが必要であろうというのが今の私の実感です。

「使ってみて」「確かめて」～活用教材の効果～

活用教材を校種ごと、教科ごと、年度ごとに一括してダウンロードできるようにページを更新しました。活用教材を積極的に「使ってみて」、児童生徒の変容を「確かめて」みましょう。

簡単！一括ダウンロードの操作方法



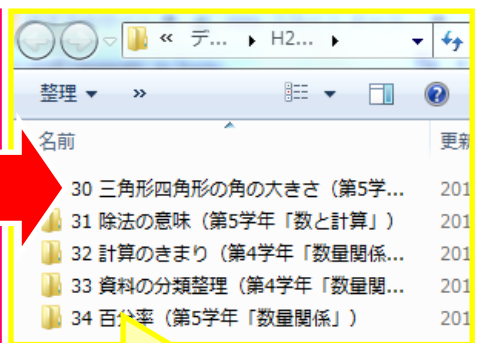
「活用教材一括ダウンロード」のボタンをクリック！

活用教材
一括ダウンロード



利用する「教科」「年度」のボタンをクリック！

ダウンロード



問題・解答・指導事例の一括ダウンロード！



“これならできる”
“やってみよう”

授業におけるICT活用「静止画」「動画」の効果的な提示



「静止画」や「動画」を提示することは、「児童生徒の興味・関心を高める」、「課題を明確につかませる」、「分かりやすく説明する」、「思考や理解を深める」（以上「教育の情報化に関する手引（平成22年文部科学省）」）ための活用になります。プロジェクタや大型モニタとパソコンをつないで「静止画」や「動画」を提示する時の、ICT活用の”ひと工夫“を紹介します。

工夫1

「静止画像」など、教材資料を並べて提示し、比較する

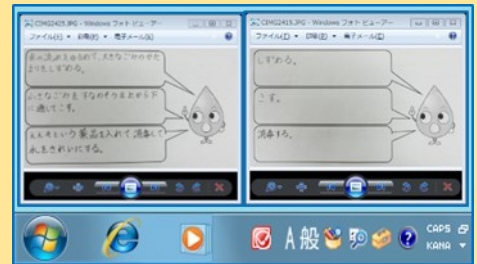
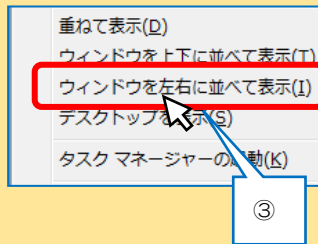
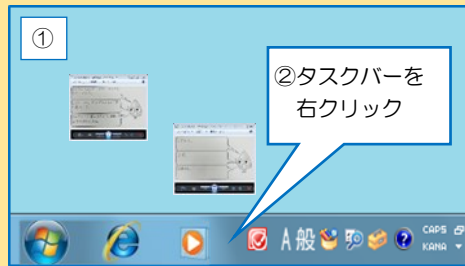
資料を提示するだけでも興味・関心が高まります。並べて、類似点や相違点に気づき、そこから課題を設定したり、比較しながら説明したりする学習活動ができます。また、子供のワークシートの記述など、違う意見を並べることで、考えを広めたり深めたりすることにもつながります。

右の写真は、プレゼンテーションソフトのスライドに、あらかじめ資料となる画像を並べて挿入（貼付）し、提示しています。



「並べて提示」は、この方法でできる！

提示する複数の画像をウィンドウで立ち上げて並べます(①)。きれいに並べるには、タスクバーを右クリック(②)して、メニューから「ウィンドウを左右に並べて表示」を選びます(③)。では、やってみましょう。



工夫2

「動画」は場面を絞って見せ、考えさせる

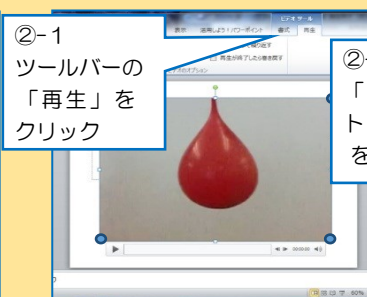
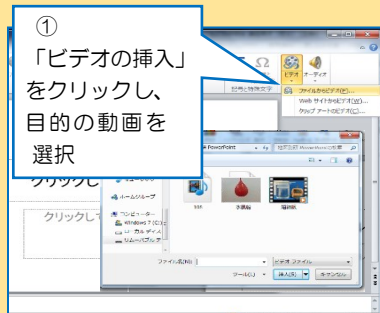
動画は、見せ過ぎると子供の「思考する学習活動」を奪う場合もあります。例えば、導入では課題となる場面だけの動画を見せ、展開で考える活動をした後に、答えとなる場面を見せることで、課題を明確につかませたり、学習の理解を深めたりする活用の仕方が考えられます。

動画を一時停止したり、編集して見せたりすることで、目的の場面だけを視聴させることができます。



「編集」は、この方法でできる！

「Microsoft PowerPoint」はスライドショーで挿入した動画の再生ができます(①)。また、挿入する際に、再生する場面の調整ができます(②)。では、やってみましょう。(※動画はWMV形式であること。それ以外のファイル形式は、「QuickTimePlayer」等の別途ソフトのインストールが必要になります。)



「個別の教育支援計画」の作成Q&A～通常の学級に在籍する児童生徒のために～

現在『「個別の教育支援計画」の作成Q&A』作成中！

本県においては、小・中学校の児童生徒の「個別の教育支援計画」の策定について示した『「個別の教育支援計画」作成の手引き～気がかりな子どものために～』を平成19年3月に発刊し、これまで、小学校・中学校だけでなく、幼稚園・保育所・認定こども園、高等学校においても一人一人の適切な支援に向けて役立てていただきました。

発刊後、平成19年4月からの特別支援教育の法制化や、インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育推進の流れの中、個別の教育支援計画は、一貫性のある支援を行うための重要な「ツール」として、更なる充実が求められるようになりました。

そのためには、これまでの「個別の教育支援計画」の成果や課題を踏まえ、特に、通常の学級に在籍する幼児児童生徒に対して効率よく、かつ効果的に「個別の教育支援計画」を作成できるような、工夫・改善が必要であると考えています。

そこで、『「個別の教育支援計画」の作成Q&A～通常の学級に在籍する児童生徒のために～』を作成し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の一層の推進を図っていきたくと考えています。



『「個別の教育支援計画」作成の手引き』
(教育センターHPよりダウンロード可)

内容は？

内容は、次の様に予定しています。



- Q&A
- 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の様式
- 事例集
 - ・ 視覚障害（中学校）
 - ・ 聴覚障害（中学校）
 - ・ 肢体不自由（幼稚園）
 - ・ 病弱（小学校）
 - ・ 言語障害（小学校）
 - ・ 自閉症（幼稚園）
 - ・ 情緒障害（高等学校）
 - ・ LD（小学校）
 - ・ ADHD（高等学校）

秘 個別の教育支援計画		秘 個別の指導計画(一学期)	
氏名	主担任氏名(本人との関係)	学年	氏名
<本人> <氏名等> <本人が、得意なこと、得意なこと、得意なこと> <本人が、嫌いなこと、苦手なこと>		担当名() 担任者() 学年 氏名	
<学習・修業上、生活上の困難な点> <input type="checkbox"/> 体の動きが速くない <input type="checkbox"/> 視覚・聴覚・嗅覚・味覚が苦手である <input type="checkbox"/> 自分以外の声や息を聞き取ることが難しい <input type="checkbox"/> こたわりが強い <input type="checkbox"/> 集中力が弱い <input type="checkbox"/> 読解力・読解性(読解性)がある <input type="checkbox"/> 国文学書くことが苦手である <input type="checkbox"/> 学習意欲が低下し学習のペースによってまちがある <input type="checkbox"/> 学校での困難な点		長期目標 支援の方向性 実施目標 実施日 結果 資料等 <input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <input type="checkbox"/> 無し 評価等	
<得意なこと> <必要な配慮・支援>		短期目標 いつ 誰が 支援内容・方法 評価 気付き等	
以上の内容を関係機関と共有することに同意しました。 備考()		について ○得意なこと、好ましいこと ●苦手なこと、改善したいこと	
		短期目標 いつ 誰が 支援内容・方法 評価 気付き等	

「Q&A」については、講座や研修会等で、よくある質問を中心として、作成時や有効活用のために知っておいていただきたいこと等をまとめています。

「様式」については、夏季休業中、県内7会場で実施した「特別支援教育スキルアップ研修会」の際、先生方のご意見をいただき、修正・改善を加えたものを提案します。

「事例集」については、通常の学級に在籍している幼児児童生徒を想定して、障害種ごとに作成しています。どのような内容を記載していけばよいのか、どのような表現で記載すればよいのか、どのような留意点があるのか等、事例集を見ていただくことでお分かりいただけるよう、工夫しています。

現在、検討中の様式です。

今後の予定は？



平成28年2月16日(火) 当教育センター研究発表会において、参加者の皆様に発表いたします。
 平成28年3月 当教育センターのホームページにWeb Upいたします。

○ 平成27年度長崎県教育センター研究発表会のコンセプト

今年度の研究発表会は、プログラムや各分科会の形態等をリニューアルし、参加される皆様にとって「主体的な学びの場」となる発表会を実現したいと考えています。下記のようなテーマで20種類の発表・協議を予定しています。

＜発表テーマ例＞

言語活動の充実 主体的な学び 自立活動

ICT機器の活用 関係機関との連携 高校生の学び直し

複式教育 いじめの予防と対応 個への支援

現在ある教育課題に立ち向かう

↓

長崎県の教育の未来を拓く！

＜メニュー豊富なセッションⅠ＞

11種類の多種多様なテーマによる、セッション形式の発表。

“あなたが必要な情報がきっとある”

◆多種多様な発表内容を見て、長崎県の教育の未来を拓くひきだしが増えます！

12:30	13:00	13:20	13:50	14:05	15:10	15:20	16:30
受付	開会 行事	セッションⅠ		セッションⅡ-①		セッションⅡ-②	

◆参加者が互いに交流し深め合う時間をつくることで、参加者の主体的な学びをサポートします！

＜互いの学びを高め、深めるセッションⅡ-①、②＞

教育課題9種類のテーマによる研究発表。
65分～130分の研究発表で学びを共有。

“聞かせて！あなたの考えが協議に生きる”

○ 「セッション」とは？

「セッション」とは、「会合」、「会議」、「授業」などの意味がある言葉ですが、語源には、「座っていること」という意味もあります。テーマについて思いや考えをもった者が同じ空間の中に座り、同じ場を共有し、情報交換や意見交換をする中で学び合う。そんな学びの場を創りたいと考えました。子どもたちの学びの充実のために、参加してみませんか？

今すぐ！お申し込みを！

長崎県教育センター



会場 長崎県教育センター

申込 第2次案内裏面に必要事項をご記入の上、FAXで、長崎県教育センター企画課宛てに送信してください。

(第2次案内は、教育センターWebページからもダウンロードできます。)

長崎県教育センター

センター通信 第18号

〒856-0834長崎県大村市玖島1丁目24-2

子どもたちのよりよい学習のために、教育関係機関との連携を深め、実効性のある事業推進をめざします。

総務課

電話：0957 (53) 1131
FAX：0957 (54) 0578

企画課

電話：0957 (53) 1186
FAX：0957 (53) 1190

教科・経営研修課

義務教育研修班
電話：0957 (53) 1132
FAX：0957 (54) 6496

高校教育研修班

電話：0957 (54) 6341
FAX：0957 (54) 6496

特別支援教育研修班

電話：0957 (53) 1130
FAX：0957 (52) 9242

教育相談室

電話：0957 (52) 9241
FAX：0957 (52) 9242

Webページもご覧ください。

長崎県教育センター

検索



シリーズ「いじめを生まない学級・学校づくりを目指して3」

前々号から、当教育センターが配布した冊子「いじめを生まない学級・学校づくりを目指して～教職員の実践力を高める校内研修プログラム～」について紹介してきました。いじめを減らすには、すべての児童生徒を対象に予防（未然防止）に取り組むことが重要です。このことについての具体的な例を冊子の「資料1」～「資料5」として掲載しています。ここに簡単に紹介しますが、詳細は冊子に掲載しておりますので、各学校で新年度へ向けての年間計画を立てる上での参考資料として御活用ください。

資料1 「いじめについて理解を深め、予防策を話し合う（指導計画例：3時間）」

児童生徒自身が、いじめの問題を自分たちの問題として受け止め、その防止に向けて主体的に考えて行動することが必要です。そのために、すべての児童生徒がいじめの問題への取組の意義を理解し、主体的に参加できる活動を学級活動などの年間計画に組み込むことが重要です。

【学級活動指導計画例】

1時間目	4月	いじめについて理解を深めよう（いじめってなに？）
2時間目	4月	いじめの予防策を考えよう（いじめをなくすためには？）
3時間目	5月	あたたかい言葉でいっぱいしよう（フワフワ言葉を増やそう）

*児童生徒の発達段階に応じて工夫して活用することが必要です。

「資料2」では、事例提供者の短い象徴的な出来事に対して、事例の状況、状態を明らかにしながら対応等をグループ等で協議していく「インシデント・プロセス法を取り入れた事例研究の進め方」を紹介しています。

資料3 「構成的グループ・エンカウンターを進め方」 資料4 「児童生徒同士の人間関係づくりを促進するための年間活動計画例」

児童生徒同士のトラブルを減らし、望ましい人間関係をつくっていくには、構成的グループ・エンカウンターやソーシャルスキル教育等を朝の会や学級活動に取り入れて実施することが有効です。「資料3」では構成的グループ・エンカウンターの基本的な流れやルール、実際の活動、「資料4」では児童生徒同士の人間関係づくりを促進するために構成的グループ・エンカウンター等を取り入れた年間活動計画を紹介していますので、ぜひ活用してください。

【構成的グループ・エンカウンター活動例】〈アドジャン〉

- ・「アドジャン」の合図でじゃんけんをする（グーは0、指1～5）。
- ・全員の出した数を合計する。
- ・出た合計数の欄に記載してあるテーマで一人ずつ順に話をする。
- ・全員が話し終わったらまたアドジャンをし、繰り返す。

「アドジャンシート」の例

1	今一番したいこと
2	私のストレス解消法
~~~~~	
9	私のおすすめスポット
0	好きな食べ物と飲み物



### 資料5 「1日30分、授業の中で級友と関わる」場の設定

「資料5」では、日常的に児童生徒同士が互いに関わる場の設定を提案しています。そうすることによって、学級への安心感、級友への親和感・信頼感を育み、学級への適応を図ることができます。1時間の授業に最低5分間、級友と関わる場を保障できれば、5分間×6校時で、どの児童生徒も毎日少なくとも30分間は、級友と関わるすることができます。ここでは一部を抜粋して御紹介します。

#### 【取組例】

##### 〈授業の中で〉

- ・自分の考えを説明し合う ・一言コメント交換 ・共同作業 ・班で話し合う
- ・個人ではなくペアで準備運動（保健体育科） ・二人で交互に音読（国語科、英語科等）

##### 〈短学活〉

- ・1分間リスニング ・一言コメント交換日記 ・ありがとうカードの交換

##### 〈給食〉

- ・おしゃべりグループ給食の日（サイコロにテーマを書いておいて、出た目の話をする）

##### 〈昼休み〉

- ・週に1、2回の全員遊び

##### 〈清掃活動〉

- ・役割分担、協力



# 言語活動の充実② 『理科における指導改善のポイント』

～全国学力・学習状況調査結果（中学校理科）の課題分析を通して～

## <理科における「言語活動の充実」>

理科においては、科学的な思考力・表現力の育成を図る観点から、生徒の状況、指導内容等に応じて、問題を見だし観察、実験を計画する学習活動、観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動を充実することが大切です。

言語活動を通して、今年度の全国学力・学習状況調査から明らかになった本県生徒の課題解決にせまる方法を考えてみます。

### 平成27年度全国学力・学習状況調査結果から明らかになった本県の課題

全国学力・学習状況調査の設問別調査結果において、本県の中学校理科の改善すべき課題となった設問番号及び出題の趣旨、全国正答率との差は、次の通りです。

#### 【課題①】 図2

電磁誘導を利用した技術の仕組みを示す場面において、指定された言葉を用いて説明することができる。

全国と本県の正答率の差(公立) **-5.8%**

#### 【課題②】 図3

「キウイフルーツがゼリーを分解する」という自然の事物・現象から問題を見だし、それを基に適切に課題を設定することができる。

全国と本県の正答率の差(公立) **-5.1%**

### 指導改善のポイント

次のような「言語活動」を仕組む！

#### 【課題①】に対して

理科で学習した知識・技能に関連した科学技術などについて、考えたり説明したりする学習場面を意図的に設定する。

生徒は理科を学ぶ意義や有用性を実感できるようになる。

#### 【課題②】に対して

教師と生徒のやりとりの中で、学級全体の課題をつくったり、班の課題をつくったりする。その際、教師の助言により、解決可能な課題をつくる。

生徒は主体的に課題解決ができるようになる。

生徒が変わる!!

### めあてを「～だろうか？」に変えよう！

《教師の声》「めあて」を「～しよう！」ではなく「～だろうか？」と疑問符が付く文体で提示するようにしたことで、生徒達に予想や仮説をもたせることができるようになりました。

### 大切なのは「必要感」と「ずれ」！

《教師の声》予想や考察の場面で、「学習への必要感」や「既習事項とのずれ」をもたせる事物の提示やICTの活用を工夫したことで、生徒達は、「私の考えは～」や「比べてみると～」など、自分なりのことばで説明するようになりました。

言語によるやりとりがあり、笑顔や賞賛の場面がある授業に!!



# 学校改善・授業改善の推進【中学校編②】

～組織的に行う授業改善で自校の学力を向上させる～

## 現状

1. 取組は行っているが、学力向上に結び付かない
2. 学力向上に向けての取組が全職員に浸透していない

学力向上の  
手ごたえが  
欲しい！

## 目的

1. 授業改善・教師の指導力向上によって生徒の学力を伸ばす
2. 全職員が学力向上に向けて互いに授業を磨き合う

## 手立て

組織的に行う授業改善で校内研修を活性化し、学力向上を図ります

### 指導案検討会を機能させます！

#### ポイント

- 指導案を見る視点を、「本時の目標」「本時の検証」「本時の評価」などにおいてそろえ、共通理解を図ります。
- 授業者は誰が見ても授業がイメージできるように指導案を書くようにします。
- 指導案検討会を、「授業がイメージできないところを質問すること」というルールで行います。

(例)社会科

「人口構成図」とはどんなもの？

少子高齢化の進行に、どのようにして気付けさせるのか？

「大観したこと」「気付いたこと」ではだめなの？

2025年の人口構成図を読みとったり、30年後の人口構成図をかいいたりする活動で、経年比較し、少子高齢化の進行に気付き、問題点について考え、まとめることを通して、日本の人口の特色について大観したことを適切に表現することができる。

授業者にとって、新たな気づきが授業の改善につながります。

本時の目標についての検討 (例 社会科)

### 授業参観を組織的に行います！

#### ポイント

- 授業後に行われる授業研究会での協議の柱に沿って、参観の視点を事前に明確にしておきます。
- 全職員で授業を参観する際に、参観の視点に沿った内容について記録をする役割を決めます。
- 参観の視点や全職員の役割が明確になるように、「授業検証シート」を参観の際に使うなど工夫をすることで授業研究会の活性化をねらいます。

「授業検証シート」

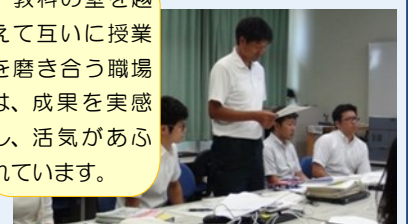
授業検証シートは、検証物や検証の方法、言語活動を充実させる視点、参観者の役割など、研究授業を参観する際に必要な情報が満載です。

### 授業研究会の成果を次の研究授業につなげます！

#### ポイント

- 授業研究会での協議の柱は、学校で設定した共通課題を踏まえ、全教科で重点的に取り組む共通の学習活動（言語活動）を基に設定します。それと同時に、検証結果の成否がはっきりと分かるように検証の視点を示します。
- 研究授業の前に協議の柱を参観者に示します。柱に沿って参観することで、授業研究会の協議を焦点化することができます。
- 協議の終わりには、次の授業実践につながる明日からの改善策を明らかにします。一つの研究授業をもとに授業改善の裾野を広げ、改善の取組を継続するようにします。

教科の壁を越えて互いに授業を磨き合う職場は、成果を実感し、活気があふれています。



出前講座の様子

全職員で授業改善に取り組むことが学力向上への第一歩です

教科の壁を越えるⅠ（出前講座メニュー番号306）を踏まえ、組織的に授業改善を図る校内研修についての出前講座（出前講座メニュー番号307）を御活用ください。

# 教育のICT化「デジタル教材コンテンツの活用について」

当教育センターでは、長崎県教育ICT化推進プランに基づき、電子黒板等のICT機器の使用を想定した、より効率的で効果的な「デジタル教材コンテンツ」の収集を行っています。本年度から学校支援サイト「玖島の杜」でデジタル教材コンテンツの素材を公開しておりますが、県内の教職員の皆様から御提供いただいた教材や素材を多くの先生方の授業の充実に役立てていただくため、今後も引き続き収集に御協力をお願いします。

## 授業で活用してみましょう

### (1) 学習内容に対する生徒の興味や関心を高めるための活用

- ・完成形や目指すべき姿の提示をすることで教材を学ぶ「動機付け」をする。
- ・教科書では理解が難しい内容を視覚的に分かりやすく示すことで、生徒の興味や関心を高める。

### (2) 生徒に課題や解決の方向性をつかませるための活用

- ・他の事項や資料との比較について、分かりやすくポイントを示すことで、課題の明確化に役立てる。
- ・生徒が苦手とする学習の手順や押さえる事項を分かりやすく示すことで、自発的な学習へつなげる。

### (3) 生徒に思考や理解を深めさせるための活用

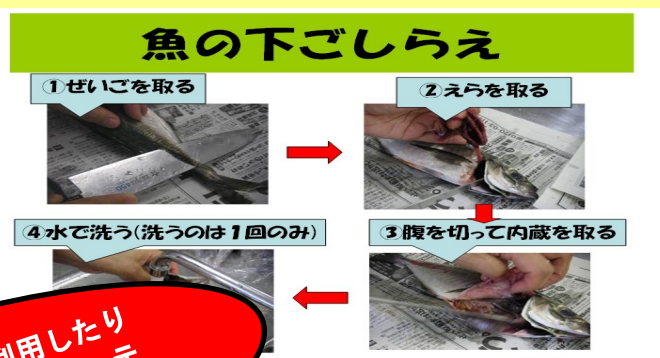
- ・スロー再生や拡大画面の表示によって、学習内容の確認に役立て、思考を深めさせる。
- ・学習プロセスを順に追うプレゼンテーションを示すことで、理解を深めさせる。

### (4) 知識の定着や学習のまとめとしての活用

- ・授業のまとめに、フラッシュ教材を活用し、知識の定着を図る。
- ・素材のアレンジをしたり複数の素材の組み合わせをしたりすることで、独自の新しい教材に作り変え生徒の学力向上に活用する。

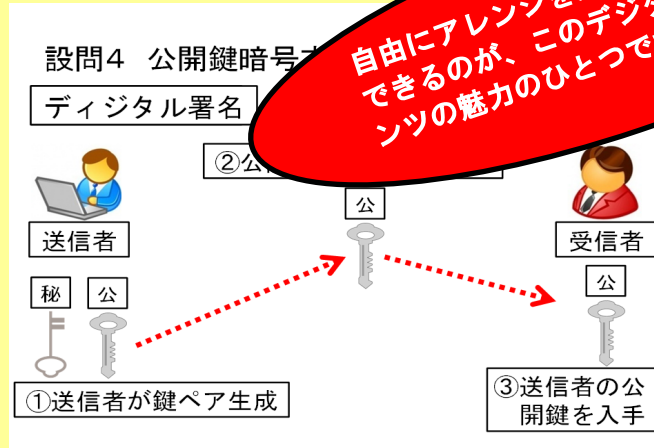


写真を使用したコンテンツ



作業手順を示したコンテンツ

自由にアレンジを加えたり利用したりできるのが、このデジタル教材コンテンツの魅力のひとつです！



問題集形式のコンテンツ

要点チェックシート形式のコンテンツ

平成27年度 長崎県教育センター 研究発表会(平成28年2月16日開催)では、具体的な活用例をご紹介します、実際にタブレットPCを用いて、その効果を体験していただくことを予定しています。多くの皆様のお越しをお待ちしています。